

県立篠山産業高等学校 令和3年度 学校評価結果

学校教育目標	令和3年度重点目標
<p>昭和8年の創立以来、校訓「自律 協調 不屈 創造」を教育理念として、産業の発展と地域を支える人材を輩出してきた。今日においても、社会の急激な変化に対応できる「しなやかさ」と、主体的に自立して生きる「強さ」を身につけた「スペシャリスト」を育成すること、ふるさとを愛し他者と協働して地域の様々な問題に取り組むことができる高い志と能力をもった「地域を担う人材」を育てることは、本校の使命である。</p> <p>専門学科である機械工学科、電気建設工学科、総合ビジネス科、農と食科が小規模ながらもバラエティに富んだ学科を持つ本校の特徴を最大限に生かした教育活動を展開しなければならない。そのために、学年と専門部、学科間の連携を今まで以上に密にして、教職員が一丸となり「学校力」の向上を図る。</p> <p>さらに、ユネスコスクール認定校としても、これまでの本校の地域と連携した特色ある教育活動をさらに発展させ、持続可能な地域社会の発展に貢献する教育に取り組む。</p>	<p>全科協働で、新しい産業教育を創造する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に貢献する ・一人一人の力を伸ばす授業の展開

学校関係者評価
<p>・産業高校の特色ある活動が積極的な展開が素晴らしいです。生徒と全職員及び保護者の一体感を手にするカギは見つかりました。</p> <p>・学びの喜びが授業創造、個別性重視の進路開拓、一人一人の生徒が自己の成長を実感出来る学びの場として輝くことを期待し、産高の進化を強く願っています。</p> <p>・生徒の成長と進路開拓には、生徒のために教師自身が汗する姿が伝わること、生徒の目に映ることが大事なポイントと考えます。教職員の努力する姿こそ、生徒が今後の人生を歩む上で生きる勇気につながると考えます。</p> <p>・何処でも閲覧しやすくなるホームページになっているのか、アップされている情報は最新か、我が子の活動が見えるのか、学科・学年の様子が手に取るように伝わってくるか、豊かな進路情報が得られるのか、先輩の働く企業現場情報は、先生方の生の声は・生徒の思いは、等々楽しく工夫をなさって下さい、生徒や保護者の笑顔が増えれば、やり甲斐はあるのではと思います。</p> <p>・良好な結果と思われま。専門高校として評価されています。今後も、さらに期待を持って見守りたいです。</p> <p>・防災をはじめ、新型コロナウイルス感染症対も含め、マニュアルの整備は大切と考えます。</p> <p>・進路指導の充実が分かる。さらに、進路指導・進路開拓こそが産業高校の生命線として、邁進なさってください。</p> <p>・よい評価だと思います。教職員の意欲が感じられます。</p> <p>・勤務時間の適正化は、健康管理に目を配り、精神的にも支援できる職場の理解と雰囲気大切だと思います。</p>

学校自己評価結果 (4:よくできた 3:できた 2:少し改善が必要 1:かなりの改善が必要)

A ≥ 3.3 3.2 ≥ B ≥ 2.5 2.4 ≥ C ≥ 1.6 1.6 > D

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価	昨年	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	HPや産高ニュースなど様々な方法により、日々の教育活動を効果的に発信しているか。	2.8	B	B
		PTA、同窓会との連携	PTAや同窓会との連携を密にし、協力体制を構築できているか。	2.8	B	B
	各部署間の連携	各学年と各科の連携	各学年と各科の連携を密にして、科を越えた学年としての指導ができていますか。	2.7	B	B
		各科の連携	各科の間の連携を密にして、互いに協力し合える関係づくりをすすめているか。	2.5	B	B
	生徒指導	生徒指導体制の確立	生徒指導部と学年の連携を密にし、生徒指導が効果的に行われているか。	2.5	B	B
		生徒の内面理解にもとづく指導の工夫	いじめアンケートや個人面談等により、いじめの早期対応や生徒指導に効果をあげているか。	2.9	B	B
		生徒会活動の活性化	生徒会活動に、生徒が主体的に取り組んでいるか。	2.9	B	B
	進路指導	進路指導体制の確立	進路指導部と学年の連携を密にし、進路指導で成果を上げているか。	3.3	A	A
		キャリア教育の充実	総合的な学習の時間やLHR等で、生徒が主体的に自己の生き方なり方を考えることができているか。	2.9	B	B
		インターンシップの充実	インターンシップにより、望ましい職業観、勤労観が育成され、進路選択の一助となっているか。	3.1	B	A
	教職員の資質向上	実践的指導力の育成	日々の業務の中で、各部署、各教科でOJTによる指導力向上が図られているか。	2.6	B	B
		職員研修の充実	研究授業や授業公開、各部主催の研修が成果をあげているか。	2.7	B	B
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの整備	防災マニュアルはもとより、様々な危機に対応するマニュアルが整備できているか。	2.2	C	B
		家庭、地域、関係機関との連携	家庭、地域、関係機関との実効性ある協力体制が確立しているか。	2.6	B	B
		自ら命を守る意識の定着	登校時の立ち番指導や避難訓練等により、生徒に自ら命を守る意識を高めているか。	2.6	B	B
	勤務時間の適正化	定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デー	実効性ある取組となっているか。	1.7	C	C
ICTの活用		PCやネットワークを活用し、業務の効率化が図られたか。	2.3	C	B	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	授業改善の取組	主体的・対話的で深い学びをテーマに、授業改善がなされているか。	2.7	B	B
	基礎学力と学習習慣の定着	授業や補習等の工夫	わかりやすい授業、達成感のある授業や補習、宿題等の工夫がなされているか。	2.8	B	B
		個に応じた学習指導の徹底	評価方法の工夫	観点別評価等を工夫し、指導と評価の一体化による多面的な評価が行われているか。	2.6	B
	新学習指導要領への対応	指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数授業は、成果をあげているか。	2.8	B	B
		教育課程編成の工夫	学科改編および新学習指導要領への移行に対応した教育課程が編成できているか。	2.7	B	B
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	教職員の協働により、総合的な学習の時間が生徒のキャリア発達に成果をあげているか。	2.8	B	B
	特別活動	計画的な実施	学校行事、ホームルーム活動が、計画性をもって実施され、成果をあげているか。	2.9	B	B
		部活動の活性化	生徒の主体的な活動が、合理的かつ効率的・効果的に行われているか。	2.6	B	B
課題教育	ふるさと貢献活動	各科の取組の充実	地域と連携した活動を通じて、生徒の自己有用感や地域を支えていく意識を高揚させているか。	2.8	B	B
		ボランティア活動の充実	学校行事や部活動を通じて、生徒の奉仕の精神を高めているか。	2.7	B	B
	特別支援教育	通級指導体制の確立	通級指導に対する教職員の理解を図るとともに、指導体制を確立しているか。	2.5	B	B
		支援体制の確立	特別な支援が必要な生徒に対して、支援体制が確立しているか。	2.3	C	B
	人権教育	人権意識の高揚	学校教育全体を通じて、日常的また計画的に生徒の人権意識を高揚させているか。	2.6	B	B
グローバル教育	外国人との交流	外国からの教員や生徒を積極的に受け入れ、生徒の国際的な視野を育成できたか。	2.5	B	B	